明日の淡海

VOL. 28
2019.9

－自然と人との共生をめざして－

公益財団法人 淡海環境保全財団

表紙写真：大津柳ヶ崎よりびわ湖を臨む

『琵琶湖モデル』を世界に向けて!!

～中国湖南省水環境改善プロジェクトで大きな成果～

淡海環境保全財団では、平成 28 年から 3 年間、中国湖南省の農村地域において、JICA の「洞庭湖流域農村水環境改善プロジェクト」に滋賀県とともに取り組み、環境教育などの分野で成果を収めました。

人口７百万を擁する大都市、省都・長沙市から車に揺られて３時間余り。都会の喧騒とは打って変わり、田園風景が広がる三眼塘村に着く。この辺りは洞庭湖に近く、魚介類や農産物が豊富で豊かな食文化を育み、古来より『魚米之郷』と呼ばれている。農家の軒先には魚の干物が吊るされ、収穫した農作物が庭一面に広げられている。そばで談笑する村民の姿。遠い昔にタイムスリップしたかのような､のどかな農村風景である。一方、経済発展の著しい中国では、同時に環境問題も顕在化してきており、ここ三眼塘村も例外ではない。

汚染された洞庭湖（中国）

汚染された河川（中国）

対応が急がれるが、人々の環境への意識は未だ低い。そこで、住民が主体的に参画し、行政と住民の協働の必要性、重要性に気付いてもらうため、「せっけん運動」を原点とする、滋賀の誇るべき『**琵琶湖モデル**※』を中国の人々に学んでもらった。しかし、本プロジェクトの目指す「環境意識の向上」という取り組みの意義を理解してもらうことは、そう容易いことではなかった。

2019年6月5日　水環境改善プロジェクト成果報告会(於:長沙市)

そうした中、訪日研修で、日本の街の美しさ、日本人の環境意識の高さ、環境保全の取り組みに感銘を受けた２人の中国人研修生が帰国後、村委員会（地方政府）に環境保全の重要性を熱く訴えた。村委員会は、その熱意に動かされ、これまで進展しなかった具体的な環境保全活動がようやく動き出した。

本プロジェクトは、現在、村でリーダーとして中心的な役割を担っている、この元研修生の熱意によって大きく前進している。そこでは、化糞池（生活汚水の処理槽）の点検活動や村内の清掃活動、啓発冊子の作成・配布など、様々な取り組みが実践されている。

（次ページへ続く→）

化糞池（生活汚水の嫌気性発酵槽）の点検活動

ダム湖周辺の清掃活動

※滋賀県では、これまで琵琶湖の保全を進めてきた中で、産学官民に蓄積されてきた技術・ノウハウに基づく総合的な取り組みを「琵琶湖モデル」と呼び、世界の水環境保全と経済発展の両立を目指す地域に展開を図っています。

Index

1-2　**表紙特集**
中国湖南省水環境改善プロジェクトで大きな成果

2　**開催報告**　7月7日　わくわくエコひろば～エコキッズ博士になろう～

3　**その人に聞く**
公益財団法人 地球環境戦略研究機関　上席研究員　藤野 純一さん

4　**日本ヨシ紀行～ヨシの風景を訪ねて～**　青森県岩木川
滋賀県地球温暖化防止活動推進員リレートーク　浦 幹夫さん

5　**「省エネ・脱CO_2まちづくり宣言」**
～近江八幡市・桐原学区協働まちづくり協議会～
COOL CHOICEのポスターを募集し、カレンダーを作ります！

6　**イベント情報　お知らせ　募集**

入賞作品の展示

また、特筆すべきものとして、小学生「水環境ポスターコンクール」がある。教師との対話、絵画の制作を通じて児童自らが水環境について考え、表現するというもので、優れた作品が集まっただけでなく、他にも多くの成果があった。教師から、「ポスターコンクールで意識が向上するとは期待していなかったが、学校や生活の中で水を大切にする行動をとるようになった」、「心の中で環境を守る種となり育ち、大人になっても失われず、環境保全や村の変化につながる」、「家庭における環境行動や家族への働きかけなどの行動変容が見られた」などといった意見が寄せられた。

大人の意識を変えるのは容易なことではない、それではまず、子どもの意識を変え、家庭の中で親の意識を変えようという作戦は正解だった。

徐々に村民の意識も変わってきた。ケーススタディ活動（環境保全活動）が始まると、村民は村が変わってきたということに気づき始めた。村民の環境意識も芽生え、参加するボランティアの数も増加していった。

今年６月の成果報告会において、三眼塘村から、「このプロジェクトで取り組んだ、村長などを対象とした勉強会、小学生・村民を対象とした環境教育を通じて、村全体の環境意識が向上した。この３年で村が大きく変わった。道路、川、景観等、村が美しくなった。」そしてまた、もう一つのモデル村の光明村（こうめいむら）からは、「小学生、村民対象の環境教育をきっかけに、村民の環境意識が高まり、環境保全活動へのボランティア参加も多くなり、活動回数も増えた。また、都市部学生による、村の見学も増えた。村内が美しく変化することにより、村民は環境保全に誇りをもち活動するようになった。」との報告があった。

『琵琶湖モデル』を手本に始動した本プロジェクトの成果は、今年３月に人民日報で、また、６月には新華社で、「中日協力、水環境保全『湖南モデル』を樹立」として報道され、中国国内で高く評価された。

子どもたちも含め、住民自らが村の変化に気づき始め、住民に環境意識の芽生えが生じるなど、本プロジェクトの果たした役割は大きい。『魚米之郷』の未来は、きっと明るい。

イベント開催レポート　「わくわくエコひろば」～エコキッズ博士になろう～

7月7日（日）イオンモール草津1Fのセントラルコートにて、滋賀県と温暖化防止センターの共催イベント『「わくわくエコひろば」～エコキッズ博士になろう～』を開催しました。

開催4年目の今年も、省エネ・節電、地球温暖化や滋賀の環境について、クイズやゲームを通して楽しく学んでもらおうと、滋賀県温暖化防止活動推進員の方々が中心となって啓発活動を行いました。

毎年楽しみに参加されている方が来場されたり、また、家族で買い物に来て「うちエコ診断」を受けられた方からは、「光熱費が20％も下げられる提案をもらった。家に帰ってすぐにやってみるわ」という声が聞かれました。

この日、温暖化防止博士から『エコキッズ博士認定証』を受け取った、多くのお子さんをはじめ、参加されたみなさんにとって、びわ湖や温暖化を考える一日になったのではないでしょうか。

エネルギー体感コーナー

1日6回のステージのほか、ふろしき包み方講座や、財団のヨシ紙を使ったしおりと七夕短冊づくり、びわ湖での魚釣りを通して外来魚対策やプラスチックごみ問題を伝えるゲーム、うちエコ診断などを体験いただきました。

COOL CHOICE賛同（巻末参照）と省エネ家電アンケート

エコビンゴ大会/エコクイズ大会

自然と人との共生をめざして

その人に聞く

公益財団法人 地球環境戦略研究機関（IGES（アイジェス））
都市タスクフォース プログラムディレクター・上席研究員
藤野 純一 さん

持続可能な社会を実現するために、2015年9月に国連で採択された世界共通の目標「SDGs（Sustainable Development Goals：エス・ディー・ジーズ）」の取り組みが始まって間もなく4年。政府や経済界とともに、地域や中小企業、学校や個人でも、この目標に向かうことが必要とされています。

このSDGsの第一線の専門家として、7月に国連本部（米国ニューヨーク）で開催された「国連ハイレベル政治フォーラム（HLPF）」の全日程に参加し、日夜議論を重ねられるなど、地球環境問題について政策研究をされている、地球環境戦略研究機関の藤野さん。実は、当温暖化防止活動推進センターの環境学習教材の開発においても以前から大変お世話になっています。

－　ニューヨークに行っておられたそうですね。

HLPF 参加者 IGES 出展ブース

藤野さん　はい、SDGsの世界大会のようなものです(笑)。SDGsは「2030アジェンダ※」という文書の一部なのですが、ここでは2030年に達成すべき目標を掲げただけでなく、ゴールに向けて進んでいるかを確かめるため、毎年、国や専門機関がフォローアップとレビューをすることが決められていて、その会合でした

－　目標に向けて順調に進んでいるのですか？

藤野さん　僕自身は、ほぼすべての国がSDGsの進捗評価を受けるなど、前進していると思います。誰一人、どの国も取り残さないことを目指すことは、とても重要なことです。今回はSDG13（気候対策）もレビューされ、12月にチリで開催されるCOP25の議長が登壇しました。COP25ではアクションに重点を置き、交通部門や財務部門の大臣なども集まれるよう準備を進めているとのことでした。

－　とても積極的ですね。

藤野さん　そうなんです。日本では、温暖化対策はお金がかかるとか、つらいけどやろう、という意識が一般的ですが、10年前のCOP15（コペンハーゲン会議）の機会に行われた市民会議の結果では、世界の過半は生活の質を高めるものと捉えていました。

例えば断熱住宅は、建築時は高額でも後で光熱費で回収でき、死亡者数の多い冬の「ヒートショック（急激な温度差によって体が受ける影響）」のリスクが低くなります。個人負担でやらないといけないのか、社会全体としていい家に住めるように持っていくのか、それで国の形が変わるような気がしますね。基本的人権にも関わるところで、ドイツやイギリスでは住宅の最低室温が決められています。

－　滋賀県民一人一人が温暖化問題を考える時の気持ちの持ちようを教えてください。

藤野さん　教材開発の時にも感じたのですがみなさん、びわ湖が大好きですよね。みんなで大事にするものがあるのはすばらしいことです。でも、今のままで大丈夫でしょうか？例えば学習船「うみのこ」は、親世代も乗船していて、世代間で話題にできます。過去からのつながりとその地域をどうしたいのかを考えて、関わる人が責任を持つことが大事です。放っておいたら悪化します。努力を寄せ合わないと現状も維持できないし、さらに良くすることは難しいと思います。

地球環境戦略研究機関・藤野上席研究員

－　地域の活性化から持続可能なまちづくりを考えて、行動するのですね。

藤野さん　そうです。残念ながら滋賀県民が出したCO_2の量でなく、世界全体で出した量が温暖化に関わります。恵まれた地域から率先的な活動をして「CO_2を出す量は少なくても恵まれた生活ができる」ことを示さないと、次に続く国が今までの日本と同じようにCO_2をたくさん出す社会を作ってしまったら、滋賀県にもどんどん気象災害が来るのです。

－　最後に藤野さんの活動の抱負を教えてください。

藤野さん　みんながまねできる事例を作って、それが他の地域で展開されていくということを続けたいです。例えば、滋賀県や東近江市に適応された温暖化対策計画を作るシミュレーションモデルを、マレーシアのイスカンダル開発地域に展開したところ、地域の行政計画になりました。今は、東京都の公共建築物の省エネ・再エネ制度をクアラルンプール市に展開できないか、挑戦中です。

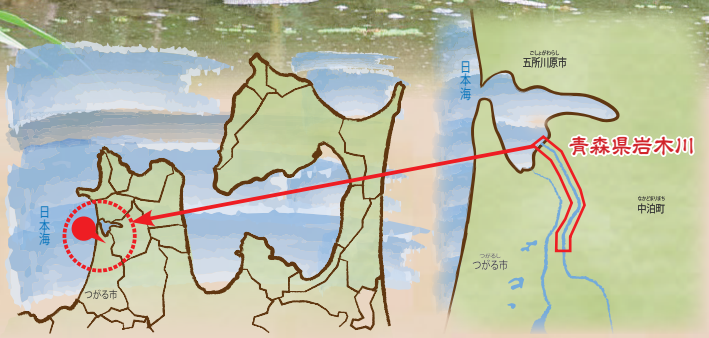
－　わたしたちもいい事例を作りたいので、ぜひまたアドバイスをお願いします！

※ Transforming our world: the 2030 Agenda for Sustainable Development
2015年の9月25日－27日、ニューヨーク国連本部において、「国連持続可能な開発サミット」が開催され、150を超える加盟国首脳の参加のもと、その成果文書として、「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。

日本ヨシ紀行

ヨシの風景を訪ねて

第２回　青森県岩木川（あおもりけんいわきがわ）



岩木川は、世界自然遺産の白神山地に水源を発し、リンゴ畑で有名な津軽平野に入ります。途中、津軽富士として名高い百名山「岩木山」からの蔵助川を合わせ、やがてその流れは独特の荒涼とした風景に囲まれた、十三湖に至ります。現在、北津軽郡中泊町芦野地区から十三湖に至る11kmの岩木川両岸に、約300ha以上の日本でも有数の面積を誇るヨシ原が存在します。

ここのヨシは、屋根葺き用など伝統的な様々な用途の原料の主産地でもありますが、近年は「マメコバチの巣箱」への需要が増えています。青森といえば「リンゴ」。リンゴ農家によると、以前様々な昆虫がしてくれた花の受粉は、農薬の使用で、人手で行う辛い仕事となりました。ところが昭和の終わり頃から、受粉に「マメコバチ」という小さなハチが登場しました。リンゴ箱に詰められたヨシの茎の巣箱で繁殖するようになったマメコバチは、春にリンゴの花受粉に活躍し、青森のリンゴの生産に大きな役割を果たすようになりました。ヨシとマメコバチは、津軽娘と自然のやさしい味方です。

9月の岩木川ヨシ原（岩木山を臨む）

リンゴ園の巣箱

巣箱にぎっしりと詰められたヨシ

滋賀県地球温暖化防止活動推進員リレートーク

滋賀県地球温暖化防止活動推進員は、地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき、滋賀県知事より委嘱されています。また、県と滋賀県地球温暖化防止活動推進センターが推進員の活動のための支援を行っています。

第2回は、学習船「うみのこ」乗船の事前学習で県内を東奔西走されたこの方です!

浦　幹夫さん
草津市在住

定年を機に、それまで出来なかった活動（河川の保全活動）を始めたいと思い、「びわこ豊穣の里」に入会し、その活動を通じて推進員を知り、2012年度から7期生として参加しました。とりわけ教材開発に興味を持ち、2014年度より教材開発チームで活動しています。

昨年度「生きているびわ湖」を完成させ、今年度、県下の小学校約20校で「うみのこ」乗船の事前学習の出前講座を行いました。

若い世代から温暖化防止について考えてもらうことが重要です。熱心に耳を傾ける子どもたちを見ると、出前講座を担当して良かったと思えますし、最後に「びわ湖宣言」として書いてくれた子どもたちの言葉を聞いた時に、私たちが伝えたかった事が伝わっていることに喜びを感じます。

明るい笑顔に会えることを楽しみに、これからも頑張っていきます。

笑顔で講座をされる浦さん

特報ニュース!

「省エネ・脱CO_2まちづくり宣言」
～近江八幡市・桐原学区協働まちづくり協議会～

桐原学区協働まちづくり協議会(近江八幡市森尻町)は、美しい環境と、それを守る地域ぐるみの多岐にわたる熱心な活動が特徴の「まち協」です。

このたび、当財団(温暖化防止センター)が支援し、日本で初めて「まちづくり」という視点から、地球温暖化対策のための具体的なCO_2削減行動に取り組まれることになりました。

去る7月25日に、桐原コミュニティセンターにおいて協議会役員16名の皆さまが同席される中、馬場会長が高らかに「省エネ・脱CO_2まちづくり宣言」をされました。質疑応答の後、米山副会長が、南米の昔話「ハチドリのひとしずく」を例えに、「31の自治連合会、各部会や諸団体それぞれができることを、小さな事からやって行こう」と決意を表明されました。

今後、当財団では、地域の行事や住民の皆さまの取り組みを全面的にサポートして参ります。

7月25日　「省エネ・脱CO_2まちづくり宣言」の様子

「省エネ・脱CO_2まちづくり宣言」(一部抜粋)

私たちは桐原学区の目標である「しあわせ・豊かさ・活力」のある地域づくり、「安全・安心」の地域づくりを目指していますが、かけがえのない環境を後世の子どもたちに引き継ぎ残せるようにしなければなりません。地球温暖化問題を自分自身の問題としてとらえ、省エネ・脱CO_2の行動を暮らしの中に定着させることにより、50年先100年先もすばらしい夕日を見ることができるまちづくりをめざし「省エネ・脱CO_2のまちづくり」を宣言します。

COOL CHOICE(クール チョイス)のポスターを募集し、カレンダーを作ります！

これ以上地球温暖化が進まないよう、暮らしの中で行う「COOL CHOICE (=賢い選択)」のポスターを、児童生徒の皆さんを対象に募集します。

(応募締切：9月13日(金))

受賞作品は、温暖化防止に関する啓発等に活用し、受賞作品等を使用してカレンダーを作成します。

12月7日(土)に表彰式と、気象予報士の片平敦さんによるトークショーを開催予定です。

昨年は、ココリコ田中さんと気象予報士の片平さんによるクリスマストークショーと、森の恵みで作るリース教室を開催しました。

当財団では、環境啓発を進める目的で京セラTCLソーラー合同会社様よりいただいた寄附金を活用し、県民の皆さまに楽しんでいただける事業を進めて参ります。ぜひ今後もご注目、ご参加ください！

ご寄附・ご協力ありがとうございます

○京セラ TCL ソーラー合同会社様

財団より感謝の気持ちを込めて、御礼の感謝状と記念品を贈呈しました。上記事業にて活用させていただきます。

※財団では、事業活動に賛同いただく皆様からのご寄附を募っています。新寄附税制の施行により、寄附者の皆さまは寄附金控除の優遇措置が受けられます。詳しくは財団HPをご覧いただくか、お電話でお問い合わせください。

イベント情報 2019年9月～12月

※事前申込は、1ヶ月前から受付予定です。

イベント名	開催日	時　間	場　所	内　容
びわ湖環境ビジネスメッセ2019	10月16日(水)～10月18日(金)	10:00～17:00（最終日のみ16:00終了）	長浜バイオ大学ドーム	環境産業の総合見本市。当財団からは、「しが水環境ビジネス推進フォーラム」特設ゾーンと、新エネ・省エネゾーン「県温暖化対策課・温暖化防止センター」のブースの2か所に出展します。
エコ・エコノミー推進セミナー【びわ湖環境ビジネスメッセ共催セミナー】	10月16日(水)	13:00～14:30	長浜バイオ大学ドーム セミナー室	環境と経済が両立する持続可能な低炭素社会を目指し、セミナーを開催します。
滋賀けんせつみらいフェスタ【主催:一般社団法人 滋賀県建設業協会】	10月19日(土)	10:00～15:30	大津港前イベント特設会場	建設の仕事を楽しく学べるイベント。当財団からは、琵琶湖の水質保全を支えている下水道の大切さについて紹介します。
淡海ヨシボランティア ※要事前申込	11月4日(月・祝)	13:00～15:00	野洲市安治	びわ湖のヨシ原を広げるため、当財団で育成したヨシ苗を植えていただく、当財団主催のイベントです。
伊吹ススキ刈りボランティア ※要事前申込	11月16日(土)	10:00～12:00	奥伊吹スキー場	昔ながらのススキ原が残る奥伊吹のススキを保全するため、ススキ刈りを行っていただく、米原市と当財団の主催イベントです。
COOL CHOICEポスター表彰式&トークショー ※要事前申込	12月7日(土)	14:00～15:30	コラボしが21 大会議室	夏休みに募集したポスターの入賞作品を表彰、展示し、あわせて気象予報士の片平敦さんによるトークショーを開催します。

お知らせ

色々なヨシ製品を販売しています

刈り取った琵琶湖のヨシを利用した、ヨシ製品を取り揃えています。

ヨシ紙各種

絵ハガキ「大津絵」、「琵琶湖の魚　今森洋輔」、名刺用紙、A4用紙(薄口～最厚口)、一筆箋やしおり、手すき紙など、さまざまな風合いの製品を各種取り揃えています。

ヨシ腐葉土

ヨシに乾燥鶏糞、米糠、水、発酵促進剤等を混ぜて作った腐葉土です。通気性、排水性に優れ、特に菊、朝顔に適しています。

ヨシ苗

水辺の緑化、水質保全、景観の形成、岸辺の浸食防止にヨシを植えてみませんか。直径13㎝のポット苗と、1m角のマット苗があります。

ヨシ製品は当財団での販売のほか、下記の店舗でも取扱いいただいています。詳しくはお問い合わせください。
▶ヨシ紙：湖の駅浜大津　雄山荘　滋賀県職員生協　▶ヨシ腐葉土：アヤハディオ瀬田店

ヨシ植えボランティア募集!

琵琶湖のヨシ群落は魚や鳥などのすみかであるとともに、琵琶湖らしい風景のひとつであり、私たちの心の財産でもあります。淡海ヨシボランティア活動は、多くの方々のご協力を得て、このヨシ原の保全を行うものです。

今年は11月4日(月・祝)に野洲市安治でヨシ植えを行います。多くの皆さんの参加をお待ちしています。

※要事前申込

「COOL CHOICE」にご賛同ください

温暖化の進行を防ぐためには、1人1人が日常の生活を見直していくことが必要です。COOL CHOICE(=賢い選択)は、地球温暖化防止につながる行動などを賢く選んでいこうという国が進める運動です。

賛助会員を募集しています

財団の事業活動にご賛同、
ご支援をいただける賛助会員を募っています。
【会費】個人会員 1口 1,000円／年
　　団体会員 1口 10,000円／年
【会員特典】広報誌「明日の淡海」のご送付、メールマガジンによるイベント情報等ご案内、財団販売のヨシ製品を2割引でご購入（個人会員のみ）
※詳しくは財団HPをご覧ください。

公益財団法人 淡海環境保全財団

「明日の淡海」
VOL.28　2019年9月発行
(年4回発行)

発行 公益財団法人 淡海環境保全財団
〒525-0066　滋賀県草津市矢橋町2108番地
TEL：077-569-5301　FAX：077-569-5304　E-mail：info@ohmi.or.jp
【滋賀県地球温暖化防止活動推進センター】
TEL：077-569-5301　FAX：077-569-5304　E-mail：ondanka@ohmi.or.jp
【淡海環境プラザ】
TEL：077-569-5306　FAX：077-569-5334　E-mail：plaza@ohmi.or.jp

ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C017322
●用紙：適切に管理された森林の木材を利用したFSC®認証用紙
●インキ：環境配慮型インキ（植物油インキ or ノンVOCインキ）
●印刷：有害な廃液を排出しない水なし印刷

編集後記 表紙特集、現地報告風にまとめてみましたが、いかがでしょうか。遠い中国でわたし達の技術や経験が活かされ、引き継がれていくと思うと、感無量です。